

第2回豊浦町住生活基本計画広聴会議事録

開催日時 令和2年9月3日(木)17時～18時40分

開催場所 豊浦町役場大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

開催内容 次のとおり

1 開会

佐藤地方創生推進室長補佐より挨拶

2 議事

会議形式での初の開催。第1回で各委員から提出された意見を取りまとめし、各委員からは自己紹介とともに住環境や空き家などについて、意見を聴取した。

<各委員の意見>

(1)住環境について

松原委員

地域を維持していくには場づくりが必要だと思っている。町内からスーパーがなくなり、自分では買い物に行けない人が出てきているので配達してくれるとありがたいと思う。人材の活用が大事と思うが、高齢者は地域の役に立ちたいと考えている。今の子育ては我々の時代とは変わってきているが、忙しい親に代わって高齢者に担ってもらうのも良いのではないか。

山下委員

人口減少と高齢化が同時に進んでいることを感じている。長年、地域に暮らす人たちがその地域に住み続けているとだんだんと何も感じなくなってくる。移住者が安心して暮らすことができる住宅設備や安心して働くことができる環境をつくる必要がある。問題はそれを誰がやるのか、町なのか、町が補助金を出して民間がやるのか、町がどのような人に移住してもらいたいのか不明である。ターゲットに適した住宅整備をしていかないとマッチしないのではないか。漁業をやりたい人はいるが、働ける場所はわずかしかなく、農業は地域おこし協力隊から将来的に農家になる仕組みがあるが、漁業にはない。

春日谷委員

大岸地区から福祉施設が撤退することになり、自治会の大きな問題となっている。私は豊浦の中心は大岸地区だと思っており、どうしてこんなに良い地域に住んでくれないのかいつも思っている。地域住民の上と下の世代の年齢構成が開いてきており、いろいろ不都合も生まれている。そのため定住を進める何らかの制度がないと克服できないのではと考える。地区にはお店も少しずつ増えてきている一方で、年間で8軒くらいの住民がいなくなっている。大岸は

漁業といっても漁師は3軒くらいしかなく農家もそれほど多くない。こういうところにも問題はあると考えており、住宅だけの問題として捉えるのではなく産業などと合わせて考えていく必要がある。時代だから仕方ないのかもしれないが、我々が子どもの頃と違い、今の親は山や川での遊びを危険と思っている人も多いと思うが、町内には良いところがたくさんある。

小野委員

豊浦町出身でこの町での生活、住居、福祉、買い物など満足しており、これまで一度も町を離れようと思ったことはない。なので、外からの目で見てこの町に何が足りないのか、何があると定住してもらえるのかを知りたい。環境を整備していくことが大事だと思う。

木村委員

移住者であるが豊浦町での生活に満足している。町としてどのような人たちに移住してもらいたいのかを決めて、その人たち用に住宅を整備してはどうか。先ほど山遊び、川遊びの話があったが、我々、親世代が遊びのことや安全に遊べる場所をよくわかっていないので、まず親の学びが必要と思って聞いていた。地域をよく知る方に親が学べる機会があれば良いと思っている。その上で子どもたちに地元の知識を教えてもらいたい。

(2)住環境について

松原委員

美和地区で最近、農業の手伝いをしたいという人がおり、すぐに定住とはいかなくても1～2か月くらいのちょっと暮らしにつながればと少し期待している。そうなると住める住宅がないので、公営住宅が利用できないかと考える。制度は理解するが、もう少し借りやすくなるのだろうか。

山下委員

町では公営住宅が空いていると言うが、古すぎてすぐに入居ができる状況にない。自分でも古い公営住宅を1棟購入したが、水道は老朽化し、風呂も自分で設置しなくてはならなかった。これでは住みたいという人がいても住むことはできない。また、礼文には外国人がたくさん暮らしているが、彼らは働いて得たお金はほとんど仕送りしている状況にある。現在の公営住宅制度は個人が住むことはできるが、共同では住むことができないようになっており、どうにかならないものだろうか。それと当社に勤務する若者のうち2名は礼文に住んでいるが、1名は休日に山歩きをし、もう1名はサーフィンを楽しんでおり、そのような姿を見るとやはり住宅の必要性を感じる。

春日谷委員

大岸の公営住宅は現在、12戸空いているが、今後さらに空き室は増えると予想する。公営住宅のつくりは旧態然で、変えていかないと若者が入居してくれない。公営住宅よりも教員住宅の方が間取りが広く、私は恵まれているように思うが、教員住宅が空いても町民は住むことができない。それと公営住宅の外壁はもう少し見栄えの良い色にできないのだろうか。そうしないと地域が

映えない。高齢者ではなく若者が住みたいと思えるような住宅を整備していくべき。これは重要な課題であり、先進的に取り組んでいる自治体もあるのではないか。

小野委員

豊浦町は昔から公営住宅が多く、公営住宅に依存しがちである。結婚した方が暮らす家を探しても見つけれないこともあり、仮にあっても古い公営住宅しかないなど住宅の選択肢がない。選択肢が欲しい。

木村委員

豊浦町への移住の際に公営住宅を2軒見に行った。一つは風呂桶が付いておらず、自分で設置すると聞いて戸惑った。もう一つは家賃が8,000円で風呂が居間に付いておりレースカーテンで仕切らようになっており、洗面所もなく虫だらけだった。私は幸い今の住宅を見つけることができたが、そうでなければ我慢して暮らさなければならなかった。農業も漁業も期間で雇用される人たちがおり、町内で働きたいという人たちがいるのに公営住宅にも住めない。利用できる制度があればと思う。

(3) 空き家について

松原委員

山地区の高齢者の間では今後、家を持つことを我慢しようという話が出ている一方で、子どもが戻って来たらどうしようという話も出ている。そういった時、今ある空き家を少し手直しすれば若者が住めるのではないかと考える。

山下委員

豊浦町は若者が移住するための支援があまりないように感じる。使えない住宅もあるが、中にはリフォームすれば十分使える住宅もある。

3 連絡

今後の予定について事務局佐より説明

4 閉会及び挨拶

佐藤地方創生推進室長補佐より挨拶